

第3回福島第一廃炉国際フォーラムの開催について

2018年4月6日

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

福島第一原子力発電所の廃炉を着実に進めていくためには、国内外に対して正確性と透明性をもった適時適切な情報発信に努めるとともに、地元住民の皆様との丁寧なコミュニケーションの継続が重要であり、対話を重ねることによって相互の共通理解を得る必要があります。併せて国内外の専門家が廃炉の最新の進捗、技術的成果を広く共有するため、第1回及び第2回に引き続き、第3回福島第一廃炉国際フォーラムを開催します。

1. 開催体制

(主催)原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)

(協力・後援(予定))関係省庁、福島県、いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村、日本原子力研究開発機構(JAEA)、国際廃炉研究開発機構(IRID)、福島大学、福島工業高等専門学校、福島民報社、福島民友新聞社、日本原子力学会、日本原子力産業協会、東京電力ホールディングス株式会社(TEPCO)等

2. 実施案

(1) 日程・場所:2018年8月5日(日) 楢葉町コミュニティセンター (福島県楢葉町)
同 6日(月) いわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市)

(2) プログラム骨子案及び主な参加予定者

① 初日(8月5日(日))、楢葉町コミュニティセンター

地元の皆様と考える1F廃炉

(午前)

・開会挨拶

・「知る」セッション

(開沼博 立命館大学衣笠総合研究機構准教授より、福島第一原子力発電所の廃炉とはどのようなものか、どんな特徴があるのか、第2回フォーラムで見えてきたものは何かなどについて紹介。)

・「話す」セッション

(参加者全員参加型ミニワークショップ。地元ファシリテーターの協力を得ながら、廃炉への想いを共有。)

(午後)

・「問う」セッション

(住民への事前調査や午前のワークショップで集まった廃炉への想いを基に、地元住民代表が廃炉関係者(東京電力、経済産業省、NDF)に質問し、廃炉関係者が回答。)

・閉会挨拶

② 2日目(8月6日(月))、いわき芸術文化交流館アリオス

技術専門家と考える1F廃炉

(国内外の専門家による福島第一廃炉の最新状況、関連技術の報告及び意見交換)

(午前・午後)

・開会挨拶

・福島第一廃炉の最新状況の報告

・メインセッション「福島第一廃炉を切り拓く遠隔技術」

・パネルディスカッション

・技術ポスターセッション

・学生向けセッション

テーマ:「福島の実状から自分の、日本の将来を考えよう」

・閉会挨拶

※技術ポスターセッションの募集要項、一般参加登録手続きは <http://www.ndf-forum.com> に提示。

※プログラム詳細は、準備が整い次第、追って公表予定。

問い合わせ先:

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

廃炉総括グループ

野村

03-5545-7104